

池波正太郎

人気5作

◆「鬼平犯科帳」

幕府の特別警察ともいえる「火付盗賊改方」の長官、実在した長谷川平蔵を描いた池波の代表作。理想的アリーダー・平蔵配下の与力、同心、密偵たちの強い信頼感、一糸乱れぬチームワークで市中に闘する盗賊団と闘う痛快な物語。

◆「剣客商売」

隠居した無外流の老剣客、江戸では名の通った秋山小兵衛と子息の大治郎が諸侯に立ち向かう剣を握る、リタイアしても多くの人に頼りにされる小兵衛、秋山ファミリーと周囲の人々との心温まる交流が、四季の風情とともに描かれる。

◆「仕掛け人・藤枝梅安」

腕の良い鍛冶師・藤枝梅安の裏家業は、生きていくては世の中のためにならぬ人物を、抹殺する仕掛け人・梅安、彦次郎、十五郎、常に死と隣り合わせの主人公たち、時代小説のモチーフで暗黒の世界を取り上げた異色の作品。

◆「雲霧に左衛門」

享保の頃に全国を股にかけ出没した伝説的な大盗賊・雲霧に左衛門。大組織の一昧と火付盗賊改方長官・安部式部との熾烈な攻防を描いた長編。「七化お千代」「因果小僧六之助」など、子分たちのユニークなキャラクターも楽しめる。

◆「幕末遊撃隊」

幕末維新の動乱期に生きた幕府方の天才剣士・伊庭八郎。劣等を病みながらも薩摩の官軍に徹底的に反抗して戦い続け、函館戦争で力尽きた八郎。最後まで江戸っ子の心意気を貫き27歳の短い生涯を生きた男の物語。

の主な舞台を散策する。

1 小杉十五郎の旧居 ●下谷・三ノ輪、現台東区三ノ輪2丁目付近

藤枝梅安の相棒となる、浪人の小杉十五郎が物語の前半で住んでいた家は三ノ輪町にあった。奥山念流・牛堀道場の代稽古を勤めていた十五郎は、道場の後継者問題で門弟たちの恨みを買いつめ、梅安のもとに身を寄せた。

梅安

2 岸井左馬之助の新居 ●下谷・金杉下町、現台東区三ノ輪1丁目付近

若い頃、長谷川平蔵とともに金杉銀平道場で剣の修行に励んだ岸井左馬之助。盜賊捕縛などであたひ平蔵に協力する左馬之助が小野田治平の娘、お静と夫婦になりました。平蔵の世話で金杉下町に新居を得て暮らすようになる。

鬼平

3 新吉原・稻本楼 ●新吉原、現千束4丁目付近

江戸屈指の大道場である、心形刀流・伊庭道場の後を継ぐ伊庭八郎。門弟たちの批判をよそに、恋人の遊女・小梅がいる吉原に通い続ける。幕末激動の時代を描いた「幕末遊撃隊」の物語はこの吉原の場面からスタートする。

遊撃

4 池波正太郎記念文庫 ●西浅草3-25-16

台東区立中央図書館に併設された池波正太郎記念文庫。池波ワールドのすべてを見ることができる、ファンには必見のスペース。



発行 台東区観光課 TEL11-8615 東京都台東区東上野4-5-6
TEL.03-5246-1111(代表)

<http://www.city.taito.tokyo.jp>

協力/台東区立中央図書館 池波正太郎記念文庫



—ゆかりの地と作品の舞台—

5 真源寺 ●松葉町、現松が谷2丁目17番付近

伊庭八郎家の菩提寺である、松葉町・真源寺。物語でたびたび登場するこの寺の和尚に八郎は幼少の頃から世話をしている。江戸の宿は松葉町にあった真源寺、現在は中野区沼袋2丁目へ移転し伊庭八郎の墓もそこにある。

遊撃

6 西光寺 ●西浅草1-6-2

池波家代々の墓がある浄土真宗・西光寺。平成2年に急逝した池波正太郎はここに眠っている。

7 菓子舗・越後屋 ●新寺町菊屋橋西詰、現松が谷1丁目付近

(東本願寺御用・御菓子舗)の看板を掲げる格式の高い菓子舗、雲霧に左衛門一味が最後に狙ったのがこの大店で「火盗改め」との熾烈な戦いが繰り広げられる。現在の合羽橋道具街のちょうど入り口付近にある。

雲霧

8 阿部川町 ●現元浅草4丁目付近

周りを寺院に囲まれた町・阿部川町。「鬼平」では「大工小僧」の異名をとった盗賊・泥鰌の助がここに住み、「雲霧」一味の頭、富の市もここに居を構え越後屋の様子を窺っていた。阿部川町は川柳の創始者・柄井川柳のゆかりの地でもあり、阿部川町の名主を務めた川柳の碑が菊屋橋公園にある。

鬼平

雲霧

9 しる粉屋・松月庵 ●新堀端・童宝寺門前、現台東区寿1丁目付近

長谷川平蔵配下の同心・木村忠吾は剣術には全く自信がなくたりない存在だが、どこか憎めない若者。盜賊の娘、お雪と深い仲になって、新堀端・童宝寺門前のしる粉屋・松月庵で通い引きをかさねる。江戸の水路・新堀、現在は暗渠になり合羽橋道具街通りと新堀通りになっている。童宝寺は(鯉寺)としても著名。

鬼平

10 酒販・元長 ●駒形町、現関門2丁目付近

駒形町の裏手にある小さな料理屋・元長。秋山小兵衛の仲立ちで夫婦になった、橋場・不二郎の調理人・長次と座敷女中・お元が開いた店。店の名は小兵衛が名付け、秋山ファミリーとは家族ぐるみのつきあい。

剣客

11 大川橋 ●吾妻橋

江戸の頃には大川橋とも呼ばれていた吾妻橋。池波作品ではこの橋の上でさまざまな事件が起きる。「剣豪」では秋山小兵衛の門人で御用聞きの四谷の弥七が襲われ、「梅安」ではこれも御用聞き豈治郎が襲撃され深手を負う。

剣客

梅安

12 楠子店・卯の木屋 ●浅草寺参道、仲見世付近

藤枝梅安の相棒・彦次郎は仕掛け人だが、表の業家は腕の良い楊子職人である。品物を納めている楊子店は浅草寺参道の卯の木屋で、彦次郎の作る「ふさ楊子」(平楊子)は、品の良さが多くの店にとって、なくてはならないものである。

梅安

13 駕籠屋・駕籠駒 ●山之宿町、現花川戸2丁目付近

秋山小兵衛がよく利用する山之宿町の駕籠屋。「暗殺」事件ではこの駕籠屋が惨殺されてしまう。浅草寺の二天門を出て東にまっすぐ進んだ隅田川の手前が、山之宿町で現在の花川戸公園の付近である。

剣客

14 池波正太郎生誕地碑 ●国立乳山聖天公園・浅草7-4-9

待乳山聖天の南側で大正12年1月に誕生した池波正太郎は、エッセイに「大川の水と待乳山聖天宮は私の心のふるさとのようなものだ」と記している。2007年11月、聖天入り口にある待乳山聖天公園に生誕地碑が建立された。

鬼平

15 船宿・嶋や ●今戸橋近く、現今戸1丁目付近

長谷川平蔵がよく利用する船宿で、山谷堀に架かる今戸橋の近くにある。亭主の亀次郎は平蔵の幼友達で船宿だがうまい料理も出してくれる。「火盗改め」の浅草方面における重要な探索拠点として店の者たちも協力する。

鬼平

16 本性寺 ●今戸町、現清川1丁目1-2

この寺には秋山小兵衛の妻・お貞の墓がある。その隣に、小兵衛は朋友・嶋岡礼蔵の遺体を埋葬した。かつて小兵衛と礼蔵は二人でお貞を愛しあったいさつがある。小兵衛は日課のように墓参を欠かさず、香華を絶やさない。「剣客」に登場する人物はほとんどが架空の人物であるので、実際に墓は存在しない。

剣客

17 料亭・不二樓 ●橋場町、現橋場1丁目付近

江戸時代の橋場は、隅田川を行き交う舟と美しい景観が相俟って、資産家の寮や高級料理茶屋が建ちならび、いわば別荘地であった。船着き場のある料亭・不二樓は秋山小兵衛が主人夫婦と親交が深く最もお気に入りの店。

剣客

18 玉姫稻荷神社 ●橋場町近く、現清川12丁目13-20

一面に広がる浅草田園の中に、浮島のように見える玉姫稻荷神社。社殿駿馬堂のあたりで、不治の病に苦しめ誰にも心を開かない鬼熊酒屋の熊五郎に、秋山小兵衛は鍔ヶ淵の隠宅へ訪ねてくるように、やさしく説いてくる。

剣客

19 料亭・井筒 ●橋場町、現橋場2丁目付近

橋場・不動院の北側、深い竹林を背にした料亭・井筒は、大きな料理茶屋ではないが藤枝梅安がかねて馴染みの店。江戸市中に出てきた時には必ずここに泊まりし、時には何日も居続けることもある。

梅安

20 無外流・秋山大治郎の道場 ●橋場・真崎明神社近く、現荒川区南千住3丁目付近

秋山小兵衛の子息・大治郎の無外流道場は真崎明神に近い細の中にある。父・小兵衛が建ててくれた15坪の道場は百姓家を改造した質素なものだが大治郎の城である。現在の真崎明神社は石浜神社の中に合祀されている。

剣客

池波正太郎記念文庫

池波正太郎の業績や作品の世界を広く伝えるため、池波家から寄贈された26,000点に及ぶ資料を収蔵、その一部を常時展示公開する施設として平成13年にオープンしたのが池波正太郎記念文庫です。全著作、自筆原稿、絵画等の展示のほか書画を復元、人気シリーズコーナー、池波作品以外の傑作時代小説約8,000冊を収集した時代小説コーナーもあります。台東区立中央図書館に併設され入場は無料、どなたにもお気軽に立ち寄りいただけるスペースです。

台東区立中央図書館内

〒111-8621 東京都台東区西浅草3-25-16

TEL03-5246-5915

●ホームページ/<http://www.taitocity.net/tai-lib/ikenami/>

●開館時間/月～土曜日：午前9時～午後8時 日曜・祝日：午前9時～午後5時

●休館日/毎月第1・3・5月曜日、毎月第3木曜日 (いずれも祝日が当たる場合はその直後の平日)

年末年始、特別整理期間



写真 田村 邦男

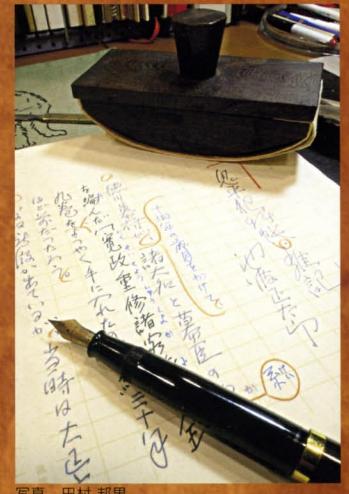


写真 田村 邦男

池波正太郎作品ゆかりの地を訪れる

其の十九



写真 田村 邦男

台東区

よーこどたいとう

Taito